

[抄録様式]

公益財団法人 8020 推進財団 令和2年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録
1. 事業名：終末期において歯科医療職がターミナルケアに関わるための啓発用ツール作成事業
2. 申請者名：小向井 英記、南島 正和、溝上 裕久、岡田 貴文、清水 佑一、竹川 剛典、福岡 哲郎、田尻 匡恵、有山 公介、米田 彩、吉田 賢慈
3. 実施組織：一般社団法人 奈良県歯科医師会 高齢者歯科保健委員会
4. 事業の概要： 厚生労働省は地域包括ケアシステムや在宅医療の提供体制に求められる医療機能として、最終段階である終末期医療やターミナルケアの充実を目指しており、歯科医療職もその体制の中で口腔ケア、食支援、口腔内症状の緩和支援など多くの役割を担っているが、現状ではその役割を果たせているとは言えない。 当事業では啓発用ツールを作成することによって、歯科医療職がターミナルケアに積極的に関わることを促すとともに、他職種にも歯科の役割を理解してもらうことを目的とし、終末期にも歯科医療職が関わるケースが増えることで終末期の多くの方が尊厳のある死を迎えられるという成果が期待できる。
5. 事業の内容： 今回作成する啓発用ツールはDVDによるもので、収録時間は40分程度とした。内容については、昨年度奈良県歯科医師会で作成したリーフレット「ターミナルケアと歯科医療」に準じたものとし、歯科医療職が実際どのように終末期に関わっていけばいいかが理解できるようなものとする。配布先は、奈良県歯科医師会会員の所属する625歯科医院（所属する歯科医師674名）及び、奈良県内の看取り・ターミナルケアが可能な医療施設・介護施設、奈良県内の終末期医療・緩和ケアを実施している病院、診療所等148施設（1施設につき2名の回答を依頼）とした。 DVD制作において、企画・構成は奈良県歯科医師会高齢者歯科保健委員会で担当し、大阪歯科大学高齢者歯科学講座の協力を得た。撮影、完成、納品に関しては、専門業者に依頼した。 またDVD制作に先立って配布予定先に、ターミナルケアへの歯科の関わりについてのアンケートを実施して現状を把握した。その後完成したDVDを視聴してもらった上で再度アンケートを実施して、その効果を検証し今後の事業展開につなげていくこととした。
6. 実施後の評価（今後の課題）： 今回、終末期において歯科医療職がターミナルケアに関わるための啓発用ツール作成事業として、DVDを制作することで啓発を行い、その制作効果を検証してみた。まずは、制作したDVDを活用し、歯科医師を中心とした歯科医療職がターミナルケアに関わるための実践力をいかに養っていくかが課題である。その意味で今後は歯科衛生士に対しても、積極的に同テーマについて啓発をしていく必要がある。 そして、ターミナルケアに今後、歯科医療職が積極的に関わっていくために、当DVDを歯科医療職の教育・啓発用ツールとして活用するだけでなく、ターミナルケアに関わる医療職、看護職、介護職の方にも、歯科の役割を知って頂くために活用することも必要である。 また、アンケート調査結果の分析で明らかになったことは、DVD視聴だけではターミナルケアに関する知識やその理解、ターミナルケアにおける歯科の役割の理解は深められるものの、現在そこに関与していない歯科医師が、そこに積極的に関与する意欲までは高まらないことが明らかになった。それが、歯科医師はDVD視聴後にターミナルケアやエンゼルケアに積極的に関わりたいという意向が減った結果となったことにつながっている。しかしながら医師、看護職、介護職に関しても、これらのケアに今後関与していきたいという意向が大半を占めるものの、積極的に関わっていききたいかということに関しては、消極的な面もある結果となったことは、まだまだターミナルケアに関する啓発は多職種を含めて不十分であると考えられる。 これらのことから、今後のこのテーマに関する歯科保健活動の方針としては個々の動画視聴のみではなく、定期的な研修会等の開催による啓発の必要性を感じた。そして更に地域包括ケアシステムとも絡めて、多職種の共通テーマとして取り組んでいくことも今後の更なる課題であると感じた。